

お酢のパワーで世界を目指す

(タマノイ酢 株式会社)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:大阪府堺市堺区車之町西1-1-32
- 代表者:播野 勤
- 資本金:2億円
- 売上高:110億円
- 従業員数:300名
- URL:<http://www.tamanoi.co.jp>

①事業概要

<酢の製造・販売>

創立明治40年の老舗酢メーカー。“酢”の歴史は古く、豊臣秀吉の時代、堺の製酢業者が大阪で酢を製造、この頃から商標として『玉廼井』が用いられる。現在、醸造酢、粉末酢、各種調味料、レトルト食品、菓子・健康飲料などの製造・販売を行い、取り扱う品目は多岐にわたる。

平成19年、創業100周年を記念し、新社屋竣工。同年、海外事業部を立ちあげ、翌年には上海・香港・シンガポールに事務所を開設。また、平成21年には、上海、シンガポールで現地法人を設立。さらに平成22年12月にはニューヨークに事務所を設立し、海外での販路拡大を目指す。

②海外展開概要

<中国、香港等への現地法人設立及び輸出>

国内では高齢化が進み、市場が縮小傾向にあることから、海外展開に目を向け始めた。アジアは今後、経済発展が期待でき、生活水準が豊かになり、健康志向やダイエット・美容に関心が高まるだろうと予測。

平成20年11月に香港、平成22年12月にニューヨークに事務所を開設。平成21年には上海とシンガポールに現地法人を設立。

海外向け商品として、アジアでは「お酢飲料」を、欧米では「お酢」そのものを販売。アジア展開では、日本で製造した商品を海外拠点に向けて輸出。物流コストや関税コストがかかって、商品が割高になるため、販売対象が、人口のわずか1%未満の富裕層に限られている。今後販売規模拡大のためには、中間所得層向けの価格帯の商品販売を目指す必要あり。そのため、現地生産拠点を設けることを検討中。いかに高品質な製品を現地生産できるか

が今後の課題。

欧米では日本食へのブランドイメージが強く、少々高くても品質の良い日本の「お酢」がよく売れる。平成22年12月にニューヨークに事務所を設立したことにより、これを拠点とし、今後さらに販路拡大を目指す。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

上海とシンガポールについては当初、(財)大阪産業振興機構のサポートを受け、現地のスタートオフィスを借りたことにより現地事務所設立がスムーズに進んだ(※現在この制度は廃止)。

海外で事業を行うとなると、重要なのは情報収集。現地でのネットワークづくりが大切。先に進出している日系企業間の集まりなどに参加し、情報収集の手段を確保することが必要。中国では購買客層(富裕層)の情報を得るため、現地の中国人とのネットワークが不可欠。新たに販売ターゲット層としている中間所得層に通じた情報が得られ、販路拡大につながる。当社では上海事務所に、日本に留学経験がある中国人スタッフを配置。現地の中国人のネットワークを通じて情報収集を行っている。

④今後の事業展開について

海外展開するにあたり一番大切なのは情報収集。公的機関の支援や民間(現地のコンサルティング会社や商社、銀行等)の情報などを利用しつつ、現地の生の情報を確保できるネットワークづくりが必要。そのためには人材確保が重要。海外展開に向けてとにも一丸となって取り組める人材の採用・教育が大きな鍵となる。



◀ 奈良県にある本社工場。
HACCP認証で安心・安全



▲ 本社



◀ 同社の製品

(平成24年10月現在)

データ出所:近畿経済産業局